

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2013年3月1日

114号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

パクー孵化の成功に喜ぶレダ在住のスタッフ



孵化リポート二〇一三年一月二十四日(佐野氏報告)
十万匹の放流へ一歩前進!
一月二十三日十二回目のチャレンジで再び孵化に成功しました。

今回は孵化の時期が終わりに近づき、他の養殖場もほぼ終了している中で、最後の試みがなされました。魚は産まなかった卵が体に吸収されてしまいました。約二百五十匹の親魚を一匹ずつ吟味し、今年最後のチェックがなされました。やはり大半は卵を持っていないで、もうお腹がへこんでいました。その中からようやく何とか二匹だけ卵を取り出せそうな親魚を見つけ、水槽に移しました。

ホルモンを投与して約二十二時間後に卵を取り出し、オスの精子をかけ、孵化器に移しました。一匹の親の卵はほとんど孵化しませんでした。もう一匹の卵が大量に孵化したことを確認出来ました。

親魚の体重が三・五キロですから理論的には三十五万個の卵を持っているはずなのですが、時期の問題があり、すべての卵が排出しなかったり全ての卵が孵らなかったりですが、十万個は孵ったのではないかと期待しています。

この成功により、放流もいよいよ現実のものとなってきました。

孵化レポート(一月二十五日)

昨日(二十四日木曜日)孵化して一日半が経過して東野指導員が飼料を与え始める。

イタイプ養殖場で教わったように、卵の黄身と粉ミルクを混ぜて与えた。しかし、私たちの問題は他の養殖場のように小川の澄んだ水や井戸の水をふんだんに使えるところとは違って、澄んだ水がふんだんに使えないこと。我々の孵化器の水は、硫酸アルミニウムで処理した二十トンの透明の水を確保して、それを循環させている。

その為、孵った稚魚の殻、死んだ稚魚、飼料の残りかすなどが一、二日経つと水の中で腐敗しはじめ、水質が極端に悪くなる。(次のページに続く)

（前ページより）そこで、透明な水の循環をあきらめ、川の水を常時、流し続けることにした。これで孵化器の中がよく見えなくなつたけれども、稚魚は先回よりは格段に元気なように見える。ただ水温が三十一度。これは適温と書かれている二十七度から四度も高い。この過酷な自然環境下のチャコ地方における魚の養殖は、前人未到の新しい試みであり、我々が新しいノウハウを確立していく開拓者であることを改めて感じさせられる。

今日（二十五日金曜日）東野指導員はじめ数人であらかじめ準備された池へ朝一番で稚魚を移す作業をする。

池は三日前にまず水を抜いて石灰で消毒。その後川の水を、丁寧にフィルターにかけて注入。その後、鶏糞を入れる。鶏糞は稚魚の餌になるプランクトンを発生させるため。しかしあまり早く入れすぎるとプランクトンのほうが成長し、稚魚のほうが逆に食べられるので微妙な兼ね合いが必要。まず、孵化器からデリケートな生まれたての稚魚をそろそろりとすくい、容器に移す。そして、稚魚を移した数個の容器をゆっくりと池まで運び、池にしばらく浸けておく。池の水温と容器の水温が一致したところで池にすべてを移す。腫物に触るような神経の張りつめた作業。すべての稚魚が生き延びてくれるようにとの祈りを込めて全員がこの作業に参加した。約一時間ですべての作業は終わった。池の水は透明でないので観察は難しくなり後はパクーの稚魚にすべてを託すのみとなった。すべての稚魚が元気に生き延びてくれることを祈願し、全員で記念撮影をした。

（先回の稚魚は、大きいものでは1cmにも成長しました。）

パクー孵化のプロセス



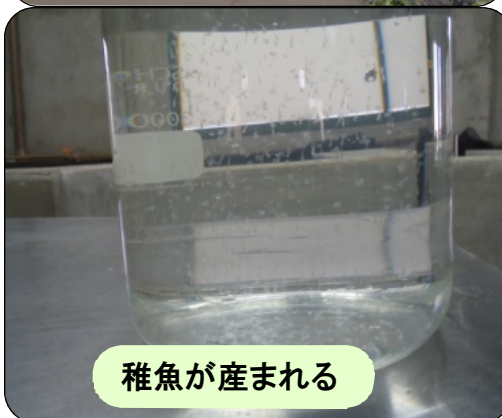
親魚の選定(卵を持つ)



排卵の為のホルモン注射



卵子に精子をかけ受精させる



稚魚が産まれる



稚魚を孵化器に入れ育てる



成長した稚魚を池に移す準備



少しずつ分けてバケツに移す



ドラム缶の中で池の温度にならす



温度に慣れた稚魚を池に放つ

南北米福地開発協会が推進してきた活動で人々を啓蒙し、世界最大の湿地帯パンタナール（世界遺産）の生態系を保護する活動を推進して行きましょう。会員の方が啓蒙のため、集会を計画してください。講師は事務局が派遣します。



二月九日、日立シビックセンターで平和大使セミナーが開かれ、レダでの活動を報告しました。参加者は十五名と少人数でしたが、皆様熱心に話を聞き、映像を見てくれました。報告後の座談会でも多くの質問が出、和やかな雰囲気の良い時間が持てました。持参したパロサントの木の置物、アルガロボの実、パラグアイのお金なども興味深げに眺めていました。

伊達記

土浦での平和大使セミナーの報告
南北米会員の椎名氏がピースライフセミナーに参加し、土浦にて一度、レダの報告会を開催したいと、計画を立ててくださりました。一月十九日、二時から一時間半の講話。その後三十分ほど質問を受けました。参加者は五十名ほどで元市長、2人の市会議員、会社の社長も数人参加していました。パンタナール保全と近隣の村への支援活動を継続してきた内容に参加者は皆、感動しておりました。集会の後の懇談会では、土浦から計画を立て、エコツアーを行っていただきたいと盛り上がりつつありました。水戸から参加した方も水戸でも計画したいとの声が上がっていました。会員のみならずの地域でも是非、レダの報告会ができるように渉外を勧めて下されば感謝です。

柴沼記

講演の内容

①南北米福地開発協会の目的と意義

②自然に対する私たちの姿勢

③なぜ、南米、パラグアイの

④今までの活動

⑤活動を通して何を学んだか

⑥近隣のインディヘナ村と

⑦日本の学生青年を組織し、

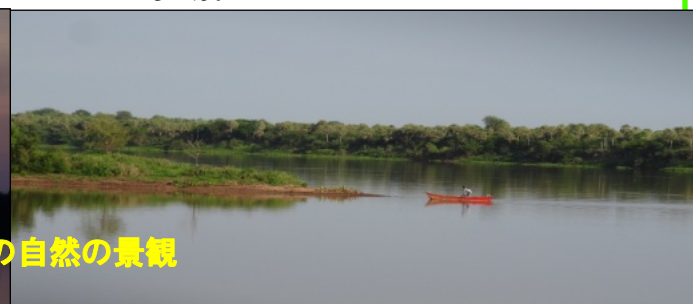
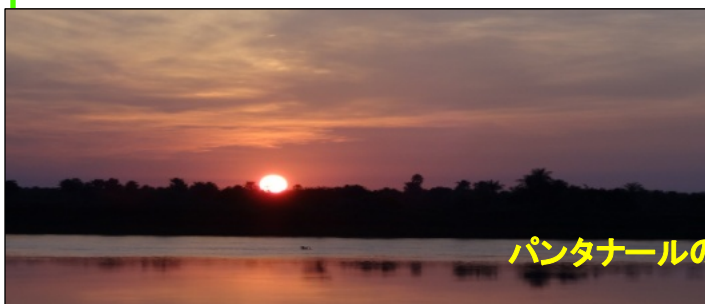
⑧パンタナールでの自然保護

⑨日本の環境問題への

役割と責任

日本から遠い国、南米パラグアイの最北部、パラグアイ人でさえもほとんど行く機会のない辺境の地。四十度を超える厳しい自然環境。そこでの開拓をする中で得られた体験と、近隣のインディヘナ（先住民）たちとの交流と、環境保護活動の歩みとを、日本の各地で紹介してきました。特に日本の未来を担う青年、学生の方々の反応は、予想以上に大きなものでありました。島国日本から世界に関心を持ち、世界人として歩んで行くきっかけとなる貴重な内容であると思います。

役割と責任



パンタナールの自然の景観



南北米福地開発協会の創設者 文鮮明氏の四女であり、ハワイでコーヒーの栽培から販売まで行い、韓国ではコーヒーショップのチェーン店を運営する文善進社長がレダを訪れ、活動状況を視察された。レダでの植林活動、環境保全の活動に感銘し、是非、援助をしたいと、支援金を送ってくださった。

第19回ピースライフセミナーのご案内

日時:4月13日(土)、14日(日)

会場:埼玉県県民活動総合センター(渋谷から一時間ほど)

「自分の生き方」と「世界の環境の問題」を見つめなおしてみませんか。本来の人間とはまた、人間と環境との関わりを発見し、希望ある未来を築きたいと願われる皆様のピースライフセミナーへの積極的なご参加を心からお待ちしております。植樹活動の報告、パンタナールの自然、レダ開発プロジェクト等も紹介されます。

◎参加者の感想

様々な活動の説明やお話しを聞きながら、直ぐにでも南米パラグアイやパンタナールに行って植樹してみたいと思いました。そして、子供達が自然の中で遊びのびと育っていける、本当の家庭を築いていけるのではないかと希望を持つ事が出来ました。

詳しくは事務局の担当者にお問い合わせください。



南北米福地開発協会

会員募集中

地球家族として

自然を守りましょう

南米、パラグアイ、パンタナール地域へのエコツアーならびに植林活動を通じて

生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒二一三〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

電話 〇四四一八二九一二八二二

Fax 八二九一二八二〇

会費納入 郵便口座

一〇一八〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

Eメール office@asd-nsa.jp

ホームページ <http://www.asd-nsa.jp>